

# 仙台営業所が本稼働

## 秋印 首都圏への中継基地

【秋田】秋印（三浦征善社長、秋田市）の仙台東IC営業所が本格的に事業を始めている。ネットワーク整備の一環で、首都圏との中継基地の役割を担うとともに、地元とのアライアンス

体制を構築し、より高度多様化する顧客ニーズに対応していく。秋田市を本拠に、潟上市や鹿角市に営業所を構え、運送業と倉庫業、物流コンサルティング、特定労働派

遣事業など幅広い物流サービスを提供。運送業は青果物の市場配送業務などをメインに展開している。卸売業のニーズに的確に対応しているが、首都圏との長距離輸送が多く、労働時間の管理が課題だった。



仙台東IC近くに開設した営業所

また、秋田県は少子高齢化が全国的にも速いスピードで進んでいる。中長期的な事業展開を図る上で、ネットワークの構築として、東北経済の中心地である仙台圏への進出を目標に掲げ

ていた。

一昨年10月に仙台連絡所（宮城野区日の出町）を設け、営業所の開設準備を進めてきた。しかし、昨年3月に東日本大震災が発生したため、開設時期が延びていた。

営業所は仙台市若林区御町東地区に設置。仙台東部道路・仙台東インターチェンジ（IC）の近くで、地元倉庫業者の一角を借り受けた。仙台東IC営業所として、昨年10月に認可が下りた。車両5両を配置し、主な取り扱い貨物は青果物ではなく、水産物の市場配送業務を担う予定。

1月中旬から人員体制も整い、本格的な業務が始まった。三浦善寛・運輸事業部長は「仙台は東北の中心地であり、首都圏との中間点に当たる。労働時間問題をクリアするとともに、地元企業と『ロジ・アライアンス』を組み、顧客ニーズに応えたい」と語った。

（黒田 秀男）